

例題 14 グラム・シュミットの直交化法
グラム・シュミットの直交化法により、つぎのベクトルから R^3 の正規直交基底を作れ。

$$x_1 = (-2, 1, 0), \quad x_2 = (-1, 0, 1), \quad x_3 = (1, 1, 1)$$

【解答】 まず $y_1 = x_1$ とおくと

$$a_1 = \frac{y_1}{|y_1|} = \frac{1}{\sqrt{5}}(-2, 1, 0) = \left(-\frac{2}{\sqrt{5}}, \frac{1}{\sqrt{5}}, 0\right)$$

つぎに

$$y_2 = x_2 - (x_2 \cdot a_1)a_1 = (-1, 0, 1) - \frac{2}{5}(-2, 1, 0) = \left(-\frac{1}{5}, -\frac{2}{5}, 1\right)$$

を正規化して

$$a_2 = \frac{y_2}{|y_2|} = \frac{1}{\sqrt{30}}(-1, -2, 5) = \left(-\frac{1}{\sqrt{30}}, -\frac{2}{\sqrt{30}}, \frac{5}{\sqrt{30}}\right)$$

また

$$\begin{aligned} y_3 &= x_3 - (x_3 \cdot a_1)a_1 - (x_3 \cdot a_2)a_2 \\ &= (1, 1, 1) + \frac{1}{5}(-2, 1, 0) - \frac{1}{15}(-1, -2, 5) = \left(\frac{2}{3}, \frac{4}{3}, \frac{2}{3}\right) \end{aligned}$$

を正規化して

$$a_3 = \frac{y_3}{|y_3|} = \frac{1}{\sqrt{6}}(1, 2, 1) = \left(\frac{1}{\sqrt{6}}, \frac{2}{\sqrt{6}}, \frac{1}{\sqrt{6}}\right)$$

p.60

a_1, a_2, a_3

正規直交基底を確認し計算

$$\begin{aligned} a_1 \cdot a_2 &= 0 \\ a_1 \cdot a_3 &= 0 \\ a_2 \cdot a_3 &= 0 \end{aligned}$$

問題

14.1 グラム・シュミットの直交化法により、つぎのベクトルから各空間の正規直交基底を作れ。

- (a) R^2 において, $x_1 = (-1, 3), x_2 = (2, -1)$
 (b) R^3 において, $x_1 = (1, 1, 0), x_2 = (1, 0, 1), x_3 = (0, 1, 1)$
 (c) R^3 において, $x_1 = (1, 1, 1), x_2 = (1, 0, 1), x_3 = (-1, 0, 1)$
 (d) R^4 において, $x_1 = (1, 1, 0, 0), x_2 = (0, 1, 1, 0), x_3 = (0, 0, 1, 1), x_4 = (1, 1, 0, 1)$

例題 15 直交補空間

(a) V を R^n の部分空間とする。

$$V^\perp = \{x \in R^n; \text{すべての } y \in V \text{ に対して } x \cdot y = 0\}$$

は R^n の部分空間になることを示せ (これを V の直交補空間という)。

(b) $V = \{(x_1, x_2, x_3) \in R^3; 3x_1 + x_2 - x_3 = 0, x_1 - 5x_2 + x_3 = 0\}$ の直交補空間 V^\perp を求めよ。

【解答】 (a) 零ベクトル 0 はどんなベクトルとも直交するから $0 \in V$ 。よって V^\perp は空でない。 V のかってなベクトル y に対して

$$x_1, x_2 \in V^\perp \implies (x_1 + x_2) \cdot y = x_1 \cdot y + x_2 \cdot y = 0$$

$$x \in V^\perp, \lambda \in R \implies (\lambda x) \cdot y = \lambda(x \cdot y) = 0$$

よって, $x_1 + x_2, \lambda x \in V$ だから V は部分空間をなす。

(b) 同次連立 1 次方程式

$$\begin{cases} 3x_1 + x_2 - x_3 = 0 \\ x_1 - 5x_2 + x_3 = 0 \end{cases}$$

を解くと, 表から $\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \lambda \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 4 \end{bmatrix}$ 。

よって, $(1, 1, 4)$ は V の基底であり, その直交補空間は

$$V^\perp = \{(x_1, x_2, x_3); x_1 + x_2 + 4x_3 = 0\}$$

である。 V^\perp の基底を求めるために方程式 $x_1 + x_2 + 4x_3 = 0$ を解くと

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \lambda \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} + \mu \begin{bmatrix} -4 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}$$

よって, V^\perp の基底 $(-1, 1, 0), (-4, 0, 1)$ で生成される部分空間である。

【注意】 $(3, 1, -1), (1, -5, 1)$ も V^\perp の基底である。

x_1	x_2	x_3
3	1	-1
1	-5	1
1	-5	1
0	16	-4
1	0	-1/4
0	1	-1/4

問題

15.1 $R^n = V \oplus V^\perp$ であることを示せ。

15.2 つぎのベクトルで生成される各部分空間 V の直交補空間 V^\perp を求めよ。

- (a) $(1, 0, -7)$
 (b) $(3, 1, -1), (1, -5, 1)$
 (c) $(1, 0, -1, 2), (-1, 1, 1, 0)$